

ちっちゃいものくらぶ

今回の「ちっちゃいものくらぶ」も、「せつない動物図鑑」(ブルック・バーカー著)から、動物のちょっとしたせつない告白をご紹介します。

この本の他にも、「ざんねないきもの事典、続編、続々編」(今泉忠明監修)「もしもあの動物と暮らしたら!？」(旭山動物園前園長 小菅正夫著)など、生き物に関する楽しく面白い本がたくさん出版されています。

図鑑的ではない本では、小林朋道著「先生、モモンガの風呂に入ってください!『鳥取環境大学』の森の人間動物行動学」、以下全て似鳥鶏著「ダチョウは軽車両に該当します」「モモンガの件はおまかせを」「午後からはワニ日和」「迷いアルパカ拾いました」など、うちの蔵書には動物ものもたくさん!「ぶたぶたさんシリーズ」も、ほっこりすること間違いなしだよ。

ネズミ(さん)

「ネズミには、ほかのネズミの悲しみがうつる」

ハツカネズミ 哺乳類

生息地:世界中の人家周辺など

実験動物として世界中の研究施設で飼育されている。



ネズミは、とても空気が読める動物。ある研究では、近くに元気のないネズミがいると、まわりの元気なネズミまでじっと動かなくなったそうです。しかしネズミどうしが顔見知りの場合、さらに相手の変化に気づきやすくなったんだって!ネズミのそばでは、うかつに落ちこまないようにしないとね。

うちではかつて7年間くらい、トータルでハムスターを18匹飼っていた。その時の様子では「悲しみがうつる」ということまで見抜けなかった。「おるちゅばんエビちゅ」という伊藤理佐さんのコミックには、かなり酷い扱いを受けているハムスターが出てくる。飼い主のお姉さんから「脳ミソ3グラム!」とあしらわれていた。

うちのハムスターで一番小さかった子が、ジャンガリアンのみっくんで25gだった。だから脳ミソ3gというのもありかなとも思うが…。



モルモット(さん)

「モルモットは目を開けて寝る」

体長:30cm 世界中で飼われている

もともと食用として、南アメリカの原住民の手で家畜化された

安心しきっている時には目を閉じて寝る子もいるけど、それはまれだそうです。

モルモットを飼っていて、その子がどこかをぼーっと見つめていたら、多分眠っているんだって。